

2019年7月4日

## 意見陳述書

松山地方裁判所民事第2部御中

原告 内田知子  
(松山市在住)

私が今、ここにいる理由

先ずは、この場を与えていただきましたことを感謝申し上げます。

最初にこのお話をいただいた時、私は即座にお断りしました。「私には無理です！ 原発に関して、何の知識も体験も無い私が、裁判の場で話すことなどできません。」

今回で19回目となる口頭弁論には、今まで、数十名にも登る方々が意見陳述をされてきました。福島から避難されて来られた方、伊方にお住いの方、被爆者として、母として、医師として、教師として・・・それぞれの方がそれぞれの実体験に基づいて原発に対する痛切な思いを語って来られました。私は、福島にも伊方にも住んだこともありませんし、母でも、医師でも、教師でもありません。それどころか、福島の事件が起こるまで、原発のことも政治のこともろくに考えたことさえありませんでした。「誰か賢い人たちが、ちゃんとやってくれているだろう。」「任せておけば大丈夫！」と、まるで他人事でした。

そんな私が今ここにいる理由をお話ししたいと思います。

1995年の阪神淡路大震災の時 私は大阪に住んでいて、多くの友達が被災し、困難な避難生活を余儀なくされているのを、近くで見聞きしてきました。あの時、現場で直接動いたのは、多くの市民とボランティアの方々でした。自衛隊の方々は来ていただきましたが、国からの積極的な支援は、あまり聞こえてはきませんでした。国難に際し「国は無条件で国民の救済にあたるもの」という私の思いに疑問符が付いた最初の出来事でした。

2011年、東北の地震、津波、原発のメルトダウン！次々と信じられないことが起こり、私は「いくらなんでも今度は、国を上げて被災した方々を助けてくれるだろう」と思いました。けれどテレビから聞こえてきたのは「放射能は直ちに影響はありません」というような無責任な言葉ばかりで、私が知りたい具体的な情報や対策は、やはり聞こえてきませんでした。

現場に居て 現在もなお、懸命にご尽力いただいている方々は大勢いらっしゃいます。その多くは、やはり民間の方やボランティアの方々です。

私たちの代表であるはずの政治家の皆さんが、党派を超えて一丸となって災害対策に取り組み、国民を護り助ける！という映画のような展開には残念ながらなりませんでした。

2013年、安倍さんは、原発の汚染水について「アンダーコントロール」と世界に向けて嘘の発言をし、「原発はベースロード電源」との主張のもと、再び再稼働を押し進めています。福島の実状を目の当たりにした世界の国々が、脱原発に舵を切っているというのに、どうして当事者である日本が、何事もなかったかのように振る舞えるのか?! 私の頭の中は、疑問符でいっぱいになりました。

ある時私が県庁前で「原発を止めてください!すべての原発を廃炉に!」という趣旨のチラシを配っていると、スーツの胸もとに議員バッジを着けた男性が、まっすぐ私の方にやってきて、私の耳元に顔を近づけ、おっしゃいました。「原発が無くなったら、日本は滅亡するぞ」そう言うとニヤリと笑って、足早に男性は立ち去って行きました。突然のことで、私は何も言い返すことが出来ませんでした。「原発が無くなったら、日本が滅亡する?」一体どういうことでしょうか??

またある時、市民団体の皆さんに同行して、四国電力の社長さん宛に「伊方原発を止めて、廃炉にしてください!」という趣旨の嘆願書を届けに行きました。原子力本部ビルの前には、事故以前には無かった鉄柵が作られており、ビルの中どころか、建物の敷地内にも入れてはもらえず、代理人が鉄柵越しに嘆願書を受け取る、という対応でした。なぜ? どうしてこんな対応をするんだろう?? どうして(顧客の意見に耳を傾ける)という、当たり前なのが出来ないんだろう?? 県知事の対応も同じでした。「原発を止めてください」という要望書を携えた市民が、知事に面会を求めましたが、知事室につながる廊下のはるか手前で警備員の方々に押し止められ、知事さんは最後まで、顔も見せてはくれませんでした。

なんとか電力会社の社長さんに直接お会いして、正直な胸の内を伺ってみたい。そう思っていたところ、知り合いの方から「株主になったら、株主総会で直接社長さんと話ができるよ。」と伺い早速、いろいろ教えていただきながら、生まれて初めて株というものを購入し、2012年の株主総会に出席しました。そこで社長さんに尋ねました。「自分の会社が出したゴミは自社で責任を持って安全に処理しなければいけないと思いますが、放射性廃棄物、核のゴミの処理について、どのように対処していくお考えですか?」社長さんは答えました。「原発は国策ですから、私どもは意見を述べる立場ではございません。国の方針に従いたいと思います。」え? どうして意見を述べる立場じゃないんですか?? 四国電力って、国営企業じゃないですよ?! 同じような質問を国に対してした議員さんがおられました。国の答えはこうです。「それは基本的には、民間企業の問題ですから、それぞれの企業で考えていただいて、国としてできるだけサポートはしていきたいと思います。」

結局誰も責任を取らない、いえ、取れる筈もないのです。四国電力さんにしても、本当は原発事業から撤退したいとお考えなのではないですか？最近では申入書などを提出しに行った際は、きちんとお部屋に通してくださるそうですし、2016年には1号機、2018年には2号機の廃炉を英断してくださいました。当時佐伯社長は2号機廃炉の理由を「巨額の安全対策費を要する再稼働は採算面で困難と判断」と仰っていました。先日行われた株主総会で、私はこのことについて質問しました。

私：「伊方2号機の廃炉を決定された時、『巨額の安全対策費を要する再稼働は、採算面で困難と判断』と佐伯さんはおっしゃいました。ならば、3号機を動かすにあたり、1,900億円を上回る巨額の安全対策費を支払ってもなお採算がとれる、と判断された根拠を、具体的な数値でお示してください。」

佐伯さん：「2号機は出力規模が小さく、さらに運転開始から36年が経過しており、新規性基準の審査や安全対策工事の期間を考慮すれば・・・云々」と丁寧に2号機廃炉に至る経過を説明して下さり「3号機に関しては、この場では関係ありませんので、お答えは控えさせていただきます」

私：「関係ないってことは、ないでしょう！」

議長：「不規則発言はおやめください！はい、次の方・・・」

佐伯さんの仰った「関係ありません」の言葉に世の中で起きている問題の本質が集約されているように感じました。

誰が悪い、とか、誰の責任か、何て言ってる場合ではないんじゃないか？そんな風に考え始め、自問自答する中で、私は「憲法」に出会いました。

それまで「憲法」については「法律の親玉」のようなもので、私たちが守るもの。という認識でいましたし、そもそもまともに「憲法」を読んだこともありませんでした。ですから「憲法とは、国民が国家権力の暴走を制御し、縛るためのルールである。」ということを知った時は衝撃的でした。主権在民、国民主権、民主国家の最高権力者は、誰でもない私たち自身だったのです。

よく国の仕組みをピラミッドに例えますが、頂点に居る総理大臣を99%の国民が底辺で支えている。あの図も視点が変わるとまるで違うものに見えてきます。ちょうど、コマのように不安定に立ち上がった国という組織を動かしているのは、他でもない、私たち自身なのです。わたしたちが右に傾きすぎても、また左に傾きすぎてもコマはバランスを失って迷走し、うまく回りません。後ろに引っ張られても、前のめりになっても、いけません。芯を真っ直ぐに通して、微妙なバランスを調整しながら、コマを回し続ける。それには国民である私たち一人一人の不断の努力が求められているのです。そのことに気づいたから、私はいまここに居ます。

原発は、その存在自体があらゆる面で憲法に違反していると、私は思います。憲法13条には、「生命、自由及び幸福追求に対する国民の権利については、立法その他の国政の上で、最大の尊重を必要とする。」とあります。原発を取り巻く状況下で、今までも、現在も、そしてこれからも、いったいどれだけの人たちが、命や自由を奪われ、悲しく辛い思いを強いられているか。そこに立法その他の国政の上で最大の尊重が、なされているのでしょうか？ 憲法25条には、「すべて国民は、健康な生活を営む権利を有し、国はすべての生活部面について、社会福祉、社会保障及び公衆衛生の向上及び増進に努めなければならない。」とあります。福島の子供達に起こっている健康被害、原発で働く人たちの被曝の問題、汚染された大地や海、廃棄物や汚染水。数え上げればきりがありません。それらに関わるすべての人たちに、国は社会福祉、社会保障、公衆衛生の向上及び増進に努めている。と責任を持って言えるでしょうか？ 憲法22条、及び29条には、「何人も、居住、移転及び職業選択の自由を有する。財産権は、これを侵してはならない。」とあります。福島の、ふるさとを奪われ、家や土地を奪われ、仕事を奪われ、家族を、平和に生きる権利を奪われた人たちに、これらの憲法が守られていると言えますか？

私には、憲法が保障する自由及び権利を、公共の福祉のために利用する責任があります。憲法12条「この憲法が国民に保障する自由及び権利は国民の不断の努力によって、これを保持しなければならない。又、国民は常に公共の福祉のためにこれを利用する責任を負う。」

裁判官の皆さんには、憲法と法律に基づき、自分の正義感に従って裁判を行う責任があります。憲法76条「すべて裁判官は、その良心に従い独立してその職権を行い、この憲法及び法律にのみ拘束される。」

それぞれの人が、それぞれの場で、自分に与えられた責任を真摯に果たしていけば、世界はより良いものに変えていける！私はそう信じています。

理想の世界を思い描くこと、そこへ向かうための不断の努力を決して諦めないこと。そのことを自分自身に向け、宣言して、私の陳述を終わります。ありがとうございました。